

阪大なら実現できる。
世界トップ10の研究型総合大学を。

ダメなんです。

阪大は、日本で3番目の大学じゃダメなんです。

海外学術誌の掲載論文数や研究費の獲得など、国内3位の実績は数あれど、

阪大が目指すべきなのはそこじゃない。

世界の大学、研究機関、企業が、真っ先にイメージする日本の大学、

基礎研究や応用研究で、世界にインパクトを与える研究型総合大学になるのです。

阪大の原点である適塾に集まった若者が、明治の新しい時代を切り開いたように、

阪大の「学問による調和ある多様性」こそが、次の時代を創造していく。

2031年の創立100周年には、GLOBAL UNIVERSITY「世界適塾」として、

世界の若者や研究者が目標とする大学へと生まれ変わります。

大阪大学総長

平野俊夫

3位じゃ ダメなんです。

◆QS World University Ranking 2014【国内順位3位】 ◆上海交通大学の世界大学学術ランキング2014【国内順位3位】 ◆US News & World Report, Best Global Universities 2014【国内順位3位】 ◆科学研究費補助金配分総額(大学別) 2013年度※朝日新聞出版「大学ランキング2015年版」【3位】 ◆外部資金総額(大学別) 2012年度※朝日新聞出版「大学ランキング2015年版」【3位】 ◆トムソン・ロイター 高被引用論文(総合)国内2003年1月～2013年10月※朝日新聞出版「大学ランキング2015年版」【3位】 ◆「ネイチャー」掲載論文数 2008～2013年※朝日新聞出版「大学ランキング2015年版」【3位】 ◆「サイエンス」掲載論文数 2008～2013年※朝日新聞出版「大学ランキング2015年版」【3位】 ◆有力企業人事の総合評価※毎日新聞社「エコノミスト 強い大学」 2014年8月5日【1位】 ◆民間企業との共同研究実施件数(平成25年度)※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」【3位】 ◆特許権実総導収入(平成25年度)※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」【3位】

適塾 から 世界適塾 へ

GLOBAL UNIVERSITY



〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号 tel.06-6877-5111(代表)
www.osaka-u.ac.jp

@osaka_univ www.facebook.com/OsakaUniversity

22世紀に輝く
調和ある多様性の創造

世界適塾
World Tekijuku



2031 = 創立100周年

[平成43年]

大阪大学

世界トップ10の研究型総合大学

2031年に向けた TIME SCHEDULE

調和ある多様性を創造し 世界のトップ10、目指す

大阪大学は、文部科学省が9月に採択した「スーパーグローバル大学(SGU)」の重要な一翼を担うべく、本格的な改革を進めている。創立100周年を迎える2031年までの間に、世界トップ10(※注)に数えられる研究型総合大学を目指す。

今、何を変え、何を国際社会にもたらそうとしているのか。その実現に向けた未来戦略を、平野俊夫総長に聞いた。

課題解決の糸口 「学問」で 対立乗り越える

21世紀の国際社会はグローバル化が急速に進展し、国や人の垣根を越えた交流と様々な分野での多様性が大きく広がっています。一方で、それが元で様々な場面で衝突や喧嘩が生まれているのもまた現実です。

「学問」は、大学や学問はそれを決する一つの糸口を持っています。大阪大学が提唱する「学問」による調和ある多様な人類共通言語を介して世界の調和と人類の発展に貢献することです。

多様性は、人類の歴史そのものであり、彩り豊かな文化を生み出す源泉でもあります。今こそ、スポーツや芸術と並んで人類共通言語

世界適塾構想で 「阪大から人集まる」

そのために本学は2019年度、部局横断的な教育・研究を推進する大阪大学未来戦略機構を設置しました。これをさらに発展させ、グローバル社会で活躍する次代のトップリーダー、研究者を育てる「世界適塾構想」を推進しています。国際化に対応した教育・研究環境を整えることで、留学生や教員招

である学問による調和ある多様性の創造により、多様な人材が集まる対立を乗り越えることが21世紀の大学の大きな役割です。

政などの数値目標を掲げ、世界中から「阪大を目指す」人を集めます。17年から学歴をクォーター1制(3学期制)に変えて学生の国をまたいだ交流を容易にするほか、トップレ



大阪大学総長 平野 俊夫

ルの異分野統合研究を基盤とする世界適塾大学院を設置します。こうした変革が進んでいることを世界に伝えるブランドインパクトも大切です。来年度の環太平洋大学協会(APRU)の年次総会では本学がホスト校となり、国際プレゼンスを発揮します。また海外4拠点の情報収集、発信機能を強化するほか、カリフォルニア大学UC/UCED、AEDの大阪オフィスを本学内に誘致しました。

世界での教育・研究機関と連携して研究力をさらに向上させていきます。

学問の場を多様化 「人材の行き先」 価値創造につなぐ

研究では、人材が行き交い、直接対話する共同研究が重要です。本学の国際ジョイントラボは、世界最先端の多様な知恵を共有し、共に発展させるうえで大きな成果を上げつつあります。共同研究先の教授クラスに年間1ヵ月以上本学内の拠点に滞在してもらうことで、学生同士の間にも、急増しています。今年度22拠点のラボを、23年までに100の拠点に増やしていく予定です。

今年度世界ランク100以内の日本の大学

	2012年度	13年度	14年度
東大	30位	32位	31位
京大	35位	35位	36位
阪大	50位	55位	55位
東工大	65位	66位	68位
東北大	75位	75位	71位

(注)英クアアケラレシモンズ調べ

ひらのとしお、1972年大阪大学医学部卒業、米国立衛生研究所(NIH)留学、阪大教授、研究所長、医学部長などを歴任し、2011年から現職。専門は免疫学で、インテグロキリン6の発見でクワオト賞や日本国際賞を受賞。日本学術会議会員、総合科学技術イノベーション会議員。

左の人材が次々と訪れ、そして交わされる対話から新しい発想が生まれます。19年に運用を開始する混住型学生寮「世界適塾レジッド」でも、こうした対話を常に飛び交い、新しい価値を創造する大きな力となるはず。結方洪庵の精神の下、適塾で学び合った若手たちが、やがて明治維新の舞台で全く新しい近代社会を築いていったように、世界適塾に集う若者たちが次の時代を力強く切り開き、輝かせることを宣言します。

世界トップ30の研究型総合大学へ

国際ジョイントラボを100拠点に

現在の22拠点から100拠点へ拡大。国際共同研究の拠点となる国際ジョイントラボを大幅に増加。新たな研究領域を含め、各領域の研究力の向上と国際プレゼンスの発揮を図ります。

▶ 授業の難易度・順番を明示する科目ナンバリングの完成

▶ シラバスの完全英語化

▶ 留学生受け入れ・海外派遣学生の増加
受け入れ学生 4,000人
派遣学生 1,000人

「世界適塾レジッド」 (Global Village) 運用開始

約2600戸の外国人と日本人が共に生活する混住型学生寮・教職員宿舎「世界適塾レジッド」。2019年には、第1期計画の完成を予定しています。

世界適塾大学院 設置

本学ならではのトップレベルの研究力を持つ分野や、未来戦略機構を介して創造された新学術領域の研究分野を基盤とした「世界適塾大学院」(仮称)を設置します。

▶ クォーター制(3学期制)の導入 ▶ 新AO入試の全学導入

▶ マルチリンガルエキスパート養成プログラムを開始

▶ 環太平洋大学協会(APRU)第19回年次総会を本学がホスト校として大阪で開催

▶ ティーチング・フェロー(TF)の新設

▶ カリフォルニア大学 オフィス 開所

▶ グローバルアドミッションズオフィス 設置
私費外国人留学生向け入試の開始

▶ 大阪大学未来戦略機構 設置

▶ 大阪帝国大学 創立

▶ 緒方洪庵が大阪(北浜)に阪大の原点となる蘭学塾「適塾」を開塾

適塾 から 世界適塾 へ

GLOBAL UNIVERSITY